

## 2学期が無事にスタート！

今年は、お盆前から大雨が続き、新型コロナウイルスの感染者も急激に増えるという異例の夏休みとなりました。8月9日の登校日も中止になったので、長い休みの間、子どもたちはどうしているかと心配していましたが、大きな病気や事故に遭うこともなく、元気に登校してくる姿を見て、ひと安心しました。

9月12日まで、県独自の緊急事態宣言が出され、再び制約の多い2学期となりそうです。今月予定していた宿泊学習や修学旅行は、11月に延期しました。また、来週の授業参観や学級集会は中止することにし、保護者のみなさんと対面する機会が減ってしまいましたが、10月17日予定の運動会は、何とか実施の方向で準備を進めています。



夏休み中に、タブレットPCと無線でつながる大型（65インチ）モニターが各教室に配備され、9月1日は、それを活用して、「リモート始業式」を行いました。その様子を3 SUNテレビが取材に来たので、番組で御覧になった方もいらっしゃると思います。

そして、以下は、始業式で私が子どもたちに話した内容（抜粋）です。

喜々津小学校では、「君たちは伸びる」という合言葉で活動に取り組んでいますが、2学期は、一人一人が力を伸ばせる学習や行事がたくさんあります。

そこで、ちょっとしたお話をします。みなさんは、蚤という体長が2mmほどの小さな虫を知っていますか。蚤は強力な筋力を持つ後ろ脚で、30cmほどのジャンプができます。約2mmの蚤が30cm跳ぶのですから、自分の体長の150倍のジャンプ力をもつということです。

人間に置き換えると、身長170cmの人が255mの高さまで跳ぶこととなります。走り高跳びで世界記録を出した選手でさえも、自分の身長2倍の高さは跳べませんから、蚤は人間では考えられないジャンプ力があります。

昔、ある人が実験で、蚤をガラスのコップの中に入れてみました。ガラスのコップは十数cmしかないので、簡単にピョンと跳び越えてしまいます。

次に、そのコップにガラスの蓋をします。蚤はコップから出ようとジャンプするのですが、その度にガラスの蓋にぶつかって出られません。

しばらくして、ガラスの蓋をとってあげると、どうなったと思いますか？なんと蚤はコップの高さよりも高く跳ぶことができなくなっていました。きっと蚤は、コップを超えられないと自分で決めてしまったのでしょう。

これは人間にもあてはまります。皆さんの中には、やりたいことがあっても、「自分にはできない」という思い込みで、あきらめてしまった人、やってみただけれど、いい結果が得られなかったのに、ふてくされてやめてしまった人はいませんか？本当はできるはずなのに、もっと跳べるはずなのに、無意識のうちにガラスの蓋をしてしまっているのです。

では、話を蚤の方に戻します。高く跳ばなくなった蚤をもう一度コップよりも高くジャンプさせるためにはどうすればいいのでしょうか？それは、もう一匹の蚤と一緒にコップに入れることだそうです。それによって、「跳べない蚤」は「跳べる蚤」の姿を見て、跳べるようになるといいます。蚤は自信を取り戻し、またチャレンジして、コップを跳び越えられるようになるのだそうです。



子どもたちへのメッセージ（ある高学年の教室の板書）

もう一つ、お話をします。夏休みの前半は東京オリンピックがあり、熱心に観た人も多かったと思います。

日本人選手は、今までのオリンピックで一番多い金メダルを獲得し、メダル全体の数も過去最高でした。そんなオリンピックの中で、私が最も印象に残った場面は、メダルを獲ったシーンではなく、スケートボード女子パークに出場した、中学3年生の岡本碧優（みすぐ）選手にまつわる映像です。

彼女は女子ではめったにできない大技ができ、金メダル候補でしたが、最後の最後で大技に挑戦して、落下してしまいました。小学6年生から、自ら親元を離れて指導者の家で暮らし、練習を積んだ甲斐があって、世界大会で数々の優勝を遂げていましたが、最も欲しかったオリンピックのメダルに届かないと分かった瞬間、泣いてしまいました。そして、涙を流しながら、ゴール地点に戻ると、日本の選手だけでなく、ライバルの外国の選手たちが駆け寄ってきました。そして、みんなが次々と励ましのハグをいただきました。中には肩に担ぐ選手もいました。一緒に出場した選手たちは、岡本選手が今まで人一倍努力し、難度の高い技に挑む姿をよく知っていたのです。失敗はしたけれども、果敢にチャレンジした岡本選手をたたえ、慰める姿は、国境を越え、仲間を思いやる気持ちに満ち溢れていました。岡本選手は「メダルを逃したのはとても悔しかったけど、みんなが駆け寄ってくれたのはうれしかった。」と言っていました。きっと彼女は、この経験を糧に、これからも挑み続けることでしょう。

今日話した2つの話は、どちらも「そばに仲間がいたから、がんばれた、救われた。」につながっていると思います。伸びるためには、自分だけではなく、周りの力も必要なときがあります。

学校や学級にはいろいろな人がいます。走るのが速い人、話が上手な人、手先の器用な人、遊びが得意な人など、様々です。そういう人が集まって、みんなで認め合い、協力合って、力を伸ばすところが学校や学級だと思います。

みなさんには、この2学期、様々な学習や体験の中で、周りの人と力を合わせながら、「あとちょっとがんばる」、「みんなで伸びる」という気持ちを大切に、取り組んでほしいと思います。

新型コロナウイルスの感染には気を付けながらも、心の距離は短めに、ぜひがんばってください。



## 学びの力を伸ばそう！

6年生を対象とした全国学力・学習状況調査の結果が公表され、本県の小学校「国語」「算数」の平均正答率は、全国平均を下回る結果となっていました。本校はそれと比較すると、悪い結果ではありませんでしたが、国語では、主語と述語の関係、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける力、中心となる文や語を見つけて要約する力に課題があります。また、算数では、必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する力、データの活用力、基準量と比較量を説明する力に課題がありました。これらを改善するために、2学期は校内研究で考察し、研究授業で実践を重ねながら、既習の活用力や表現力、読解力を伸ばす工夫をしたいと思います。

## さっそく効果を発揮！大型モニター



裏面冒頭でも述べた新しい大型モニターを使って、さっそく運動会で踊る「表現」の学習を始めた学級がありました。画面が大きいので、「見て学ぶ」ことがしやすくなっています。

今後は様々な授業の中で、タブレットPCとともに、「一人一人にわかりやすく届く」学習ツールとして活用していきたいと思います。

## お知らせ

休暇等の教員の代替として、9月から2名の教員が着任しました。どうぞよろしくお祈りします。



- 1年1組担任  
笹野 淳子（ささの じゅんこ）
- 3・4年理科等専科  
片山 幸子（かたやま ゆきこ）